

ケアマネ SAPPORO

2018.10.1 発行 第114号

一般社団法人 札幌市介護支援専門員連絡協議会
発行
〒001-0010
札幌市北区北10条西4丁目1 SCビル2F
TEL 011-792-1811 / FAX 011-792-5140

札幌市の災害対策とケアマネへの期待	I	ケアマネのためのメンタルヘルス実践講座	IV
全国大会in福岡研究大会に参加して	II	信頼されるケアマネのコミュニケーション	V
第2回実践事例発表大会の開催について	II	被災された皆さまにお見舞い申し上げます	VI
ケアマネ奮闘記	III		

「札幌市の災害対策とケアマネへの期待」

札幌市保健福祉局

札幌市では、東日本大震災や熊本地震等の大規模災害を踏まえ、市民の方が災害時に少しでも安全・安心に生活できるよう、各種取り組みを進めているところです。

避難場所に求められる機能や備蓄物資の整備を目的として策定いたしました「札幌市避難場所基本計画」は、現在、熊本地震等での課題を踏まえ、学識経験者、関係団体及び市民等により構成される「札幌市避難場所基本計画検討委員会」を設置し、幅広い検討を進めているところです。

また、平成29年9月に防災情報や災害時に役立つ情報を配信するスマートフォンアプリ「札幌市防災アプリ」の配信を開始し、避難勧告等の発令や避難場所の設置、気象警報などの災害情報をお知らせするほか、衛生測位システム(GPS)により取得した位置情報を元に、現在地周辺の避難場所を地図に表示する等、災害時に役立つ情報をより早く、簡単に入手することができるよう取り組みを進めてまいりました。

さらに、災害時に配慮が必要な「要配慮者」に対しての取り組みとして、平成30年3月に災害時支えあいハンドブックを改定し、地域での支えあい・助け合いの気持ちを醸成することで、大規模災害発生時に地域の共助により迅速な避難行動が行えるよう、地域での取り組みを支援しております。



また、福祉避難場所については、施設の損壊や人的体制の強化という課題に対し、ホテル等の関係団体と福祉避難場所の受け入れにかかる協定を締結し、受け入れ協力施設の拡充を図ってまいりました。また、加えて、福祉避難場所での人的支援を目的とし、北海道介護福祉士会とも協定を締結し福祉避難場所等での人的体制の強化を進めてきたところです。

今後、要配慮者に対して更なる取り組みを進めるために、日常的に地域で活動され、ご高齢の方等のケアに専門的な知見をお持ちの介護支援専門員の皆様方に対し、札幌市として、避難所等における専門的知識・経験を活かした支援・助言等の積極的な活動を期待しているところでございます。



第12回 一般社団法人 日本介護支援専門員協会 全国大会in福岡研究大会を終えて

ケアプランセンターよつば
介護支援専門員 斉藤 智美

私は、札幌市介護支援専門員連絡協議会のメンバーと一緒に演題発表の共同研究者として参加してきました。大会参加者は1200名を超え、分科会では活発な意見交換や助言者からのコメントがありました。医療連携の分科会に参加し、医療や多職種連携において必要な個人のスキルであるコンピテンシーを身につけることの大事さを学びました。

学会参加は知見を広めることができ有意義な時間となりました。福岡の文化にも触れることができよかったです。

札幌市社会福祉協議会
地域包括部 鈴木 晴美

共同研究者として参加させていただき、研究の成果を発表できましたことは良い経験になりました。

初日の特別講演は、世界医師会横倉会長から、日本の公的医療保険の現状や社会保障について解りやすい講義があり、医療介護連携のキーパーソンが「かかりつけ医」+「ケアマネジャー」であることを学びました。分科会では、「連携」においてコミュニケーション、チームワーク、プレゼンテーション、教育・トレーニングの必要性について改めて考えさせられました。

博多市はちょうど山笠祭りの最中で、街全体が活気にあふれており、子供から高齢の方まで男性皆がふんどし姿で真剣に祭りに参加をしていました。祭りを通じて「地域連携」され、世代間を超えた地域づくりの土壤があるのではないかと感じました。

札幌市介護支援専門員連絡協議会
副会長 南 靖子

去る7月14日～15日、日本介護支援専門員協会全国大会in福岡へ参加してきました。

私達は、第6分科会「医療とつなぐ、つなげる、つながる」へ参加してきました。第6分科会では5名の演題発表があり、参加者のチームワークも良い中、会場からの質問も活発にされ意見交換がされました。久々の演題発表で少々緊張しておりましたが楽しい時間を過ごすことができました。

ぜひ、会員の皆様も演題発表をしてみましょう。新しい発見があります！



主催 / 一般社団法人日本介護支援専門員協会 公益社団法人福岡県介護支援専門員協会

第2回ケアマネ実践事例発表大会のご案内

札幌市介護支援専門員連絡協議会

昨年度、1月に初めて取り組みましたケアマネ実践事例発表大会ですが、今年度も11月24日(土)ちえりあ(札幌市西区宮の沢1条1丁目)で開催致します。

札幌市で取り組まれている様々な実践を交流する場として、今後、毎年開催を目指しておりますので皆様のご参加お待ちしております。

会員の皆さまが、日常の業務の中で実践されていることや、苦労された中で知識や経験等を、発表いただき情報の共有を図ることを目的としています。なお、テーマはケアマネジメントに関する事であれば自由

笑顔を大切に

看護小規模多機能型居宅介護事業所エオス
介護支援専門員 高城 まゆみ

皆さん！看護小規模多機能型居宅介護事業所ってご存知でしょうか？今、勤務している私は、以前は知りませんでした。「今度担当する人は看多機の人です」と言われた時、「看多機って何のこと？」と思いました。現在も連絡を取る時に「看多機エオスの〇〇〇です」と伝えると「もう一度事業所名を教えてください」と言われる事が多々あります。手稲区に2箇所の事業所との事で、馴染みが薄いのかもかもしれません。看護多機能は病院で退院を迫られているが、医療的なニーズが高く自宅では介護ができなく病状は末期の状態にあるが、自宅で看取りたい等様々な希望が叶います。

事業所にはサービス付き高齢者住宅が併設されています。看護師や、介護士等の支援でその人らしく生活ができます。各部屋は利用者様のご自宅です。

毎月、サービスの利用表に捺印を頂き一部を交付します。モニタリングもします。新規・更新・変更申請の支援もします。アセスメントをしてケアプランを作成します。看護小規模多機能型サービス計画書も作成をします。毎日忙しい時間を送っていますが、入居されている方々、通所介護を利用して笑顔で過ごしている方々の表情は私に元気を与えてくれます。私の気持ちを穏やかにしてくれます。入居されている方々や、一緒に働く職員達に感謝しながら走り続けています。

「ケアマネ奮闘記 ～包括支援センター～」

手稲区第2地域包括支援センター
介護支援専門員 林 結香

私は昨年4月に地域包括支援センターに入職しました。前職は病院の相談員として認知症の方と関わることが多かったため、包括で要支援認定を受けた方のケアマネジメントに携わるなかではまだまだお元気な方が多いという印象を受けました。新規で利用者さんを担当した際に「まだまだお元気ですね」という私からの言葉に「自分なりに以前とは違うと感じている。見た目だけで判断しないでほしい」と利用者さんが気分を害されたことがありました。利用者自身の感じているお身体の変化に寄り添うことができていなかったと反省しました。とはいえ出来ないことを補う支援だけではなく、リハビリを続けることで回復したり、今の状態を維持したりすることについて、自立支援の視点で伝えることも大切であり、その難しさを感じています。

ご自宅を訪問すると、情報はたくさん散らばっているのだけれど、それを自分の頭の中で整理し、どうアセスメントをするのか、面接をどのように進めるのかを同時進行で考えるのは初め大変でしたが、少しずつ慣れてきました。利用者さんはこちらが尋ねたことに快く答えてくださるので、それでつい「わかったつもり」にならないよう心掛けています。想像力を働かせることも大切にしつつも、自分の価値観による勝手な思い込みに走ってしまわないよう気を付けたいです。

今後も利用者さんや、職場の皆様にご助けをいただきながら、少しずつ成長していきたいと思えます。

です。

発表の場合、演題を申込みの上、当日配布予定の抄録原稿を後日提出頂くほか、当日発表用の資料の作成をお願いしています。抄録原稿及び当日発表用資料を元に配布用の資料を参加者数分事務局で印刷し配布いたします。

堅苦しくなく気軽に参加出来る発表の機会として企画しております。紹介したい知識や経験、また各種学会での発表に向けた経験の機会として活用下さい。

詳細はホームページ(<http://sapporo-cmrenkyo.jp/info-list/86-study/748-2.html>)または、札幌市介護支援専門員連絡協議会 事務局までお問い合わせ下さい。

ケアマネのためのスキルアップ情報コーナー

ケアマネのためのメンタルヘルス実践講座 第5回

「職場のメンタルヘルス」

知っ得
特別授業

札幌市保健福祉局 精神保健担当部長

精神保健福祉センター所長 鎌田 隼輔

前回は『うつと自殺念慮』を取り上げました。今回は『職場のメンタルヘルス』を考えます。普段は、さまざまな困難を抱えた方々に支援を行っているみなさんも、同僚や部下から深刻な相談を受ける立場になった場合、困ることがあるのではないのでしょうか。小規模の事業所では、職員向けの相談体制はまだまだ不十分かもしれません。

【利用者からのセクハラをきっかけに仕事のミスが増えたA子さん】最近、仕事のミスが目立つA子さんに話を聞くと次のような事実がわかりました。高齢の母親を介護している40代で未婚のB男さんからの相談を受けているうちに、A子さんは、繰り返しデートに誘われ、断りきれずに一度食事に行っていました。A子さんは、B男さんに恋愛感情を持たれ、母のことで相談があると昼夜メール連絡がきます。地区担当制なので、自分で解決しなければと考え、誰にも相談できず悩んでいました。相談途中から泣きだし、「もうやめるしかない」と言います。あなたならどうしますか？

男女間の誤解から、深刻な問題に発展する場合があります。当事者は恥ずかしさから相談できず、問題を長引かせ、複雑にしてしまうことが多いようです。また、相手がストーカー的な行動をするのではないかという不安から、曖昧な態度をとることで逆効果になることもあります。相談を受けた方は個人の問題としてではなく、組織の問題として扱い、事業所の管理部門の責任者も交えて、対応策を検討し、組織全体の業務を見直す良い機会と考えましょう。業務以外での個人的なやりとりのルールを確認するとともに、プライベートなやりとりについて、管理監督責任者である上司がB男さんに事実確認する機会を持ち、組織として解決をはかるのが良いと思います。B男さんを傷つけずに、交際したい気持ちがA子さんにはないことを理解してもらうことが大切です。いずれにせよ、A子さんが安心して働ける環境づくり

キーワード 組織対応、相談しやすい職場環境づくり、エンパワメント

に組織として取組む姿勢が必要です。

【失職した夫のことで悩むCさん】溜息ばかりつき、活気のないCさんに話を聞くと次のようなことがわかりました。数か月前、夫が飲酒運転による事故を起こし、職場に居づらくなり辞職し、再就職先も探さず家事も手伝わず、昼間から飲酒して過ごしている。夫婦関係も悪化し、思春期の娘もいららし、家庭の雰囲気が悪くなった。夫は、酔うと「俺なんかいないほうがいいと思っているんだろ」「離婚したかったら離婚してやる」などと口にし、帰宅してもほっとできない。仕事に集中している間はいくらか気もまぎれるが、疲労がたまり、頭痛がひどくなっている。Cさんにどんなアドバイスをしますか？

家庭内の問題、特に夫婦間の問題や親子間の問題を相談されても、組織として対応することはなかなか難しいと思います。Cさんの夫は、もともと飲酒の問題があったようです。失職をきっかけに、生活がさらに乱れ、家庭内の雰囲気が悪くなりました。Cさんの親族に協力してくれる人はいないのでしょうか？もう少し様子を見てからと相談をためらっていると、気づかぬうちに悪いほうに進んでしまうことがあります。また、自分自身のエネルギーが低下し、行動する元気が出ないということもあります。Cさんと一緒にまず相談先のリストを作ってみることから始めてはどうでしょうか。Cさんに不眠やイライラなどの症状があるようなら、医療機関受診もひとつの選択肢となると思います。ときどき家庭の様子を尋ね、ご主人が素面の時のことやプラスの面にも着目し、あくまでもCさんがこの問題と向き合うことを支え、Cさんをエンパワメントすることが大切です。

5回にわたり連載させていただいた「ケアマネのためのメンタルヘルス実践講座」も今回で最後です。みなさんのお仕事に少しでも役立てていただけると幸いです。最後までお読みいただきありがとうございました。

ケアマネのためのスキルアップ情報コーナー

信頼されるケアマネのコミュニケーション 第4回「場の雰囲気づくり」

知っ得
特別授業

北海道医療大学看護福祉学部(コミュニケーション学)

准教授 長谷川 聡



演劇で「場(ば)」とは一本の芝居を構成する、物事が何か一つ起こる「区切り」や一仕切の「局面」を指すことばです。演出家はこの「場づくり」にこだわります。そのために劇場はP.ブルックの言う「何もない空間」として用意されます。演出家は台本で設定された時間(時代、日時等)と空間(場所)を考えて「場の雰囲気」を創ります。舞台装置や道具を揃え、照明を当て、効果音や音楽を加え、そして役者を登場させます。役者はその「場の雰囲気」を感じつつ「その役になりきる」ことで務めを果たします。これらの要素が満たされると場が成立し、そのどれか一つにでもしくじりがあれば場が壊れることになります。

さて、ケアマネの面談の「場」を考えてみましょう。面談する「時間と空間」(面談日時と場所)があり、クライアントとケアマネ(両方とも役者、ケアマネは演出兼務)がいます。コミュニケーション学的基礎構造は演劇と同じです。違うのはケアマネの演出にとって、構成要素に舞台ほどの自由がないことです。その制約の中で、クライアントの最大利益を引き出すための「最適な場づくり」をすることが、ケアマネの大切なコミュニケーション技能です。

面談の場所と時間はできる範囲でできる限り調整します。調整できなければ「割り切る」ことも大事です。割り切った上で他の要素を調整して補います。「すぐに見学する」話しなら週末より週明けが通常は良いですね。「今から見学しますか」と言えるのは職場・居宅のどちらか近い場所です。「経路も確認して」という話しならクライアント宅で話すほうが良いかもしれません。ちょっとした話しなら入口や玄関先で、長い説明が必要なら面接室や居間です。座る位置や部屋の明るさ、職場なら調度品やお茶出しも「場づくり」の検討要素です。話の目的や内容により基本的ムードを創り出す工夫をしてください。

しかし、場づくりの一番は「ケアマネ自身の雰囲気づくり」です。良いケアマネ(役者)は説明や応答の内容(台詞)だけでなく、登場の仕方から別れて見えなくなるまでの間の「言葉以外の表現」に、信頼できる専門職としての「らしさ」と「言外の意味」を醸し出します。服装、持ち物、表情、立ち居振る舞い、仕草、視線や(ことばではなく)声など、そうした「すべてのあなたの表現」がクライアントに深く伝わります。

一例です。学生の実習先で小さなトラブルがありました。調べたら学生は悪くないが、そのままだと学生が悪者になりそうでした。指導者から話を聞くと、学生のある言動が誤解を招く原因でした。私から学生にやんわりと注意(示唆かな)することになりました。

以下、私の場づくりです。

その実習先に別の用事を作り、終業時刻間際に行く。その場で学生に「他用で来たが間もなく終わるから、帰りに食事しよう、奢るよ」と約束。一緒に帰路に付きカフェで寄り道。食事して少々無駄話をした後の帰り際、「あ、そうだ。さっきこんな話を聞いた。君、誤解されたみたい。ちょっと気をつけて。実習は最後まで続けて。何も問題はない。」と話す。もちろん終始笑顔は当然です。

難しいですか？それでは「親業」で知られたT.ゴードンのことばを送ります。「他人を変えるより、自分を変えるほうが簡単だ。」場の雰囲気づくりはここからです。

「この度の北海道胆振東部地震により被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます」

札幌市介護支援専門員連絡協議会
会長 由井 康博

この度の9月6日に発生した北海道胆振東部地震では、多くの尊い命が奪われ、また怪我をされた方も多く、家屋や事業所が損傷を受けるなど大きな被害がありました。お亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈りするとともに、被災された方々へのお見舞いを申し上げます。

地震後、ケアマネジャーの皆さんはどのような対応をされましたでしょうか？

担当するご利用者の安否確認に奔走され、特にお一人暮らしの方の安否確認はご苦労されたことと思います。

9月8日に約100名の当会支部役員の方々にメールで、地域の高齢者で安否確認がとれていない方の有無、居宅介護支援事業所やその他施設の運営状況（機能しているかどうか）について情報をお寄せいただくお願いをしました。通常業務復旧に向けて尽力されている中、多くの詳細な情報を返信いただきました。

6日の早朝からケアマネジャーを召集し、電話や訪問で安否確認を始めていた居宅介護支援事業所、ケアマネジャーと連絡がとれずとも動ける範囲内で安否確認に奔走していた訪問看護事業所、訪問介護事業所などの方々。皆様本当に大変な思いで対応されていらっしゃると思います。日々の連携が生き、迅速な対応ができた事例も伺いました。幸い市内においては安否不明な方の連絡はありませんでした。

運営状況については、停電の影響が非常に大きく、6日、7日は多くの事業所が業務がままならない状況で、停電が改善後は徐々に業務を再開し、10日頃には大半の事業所が業務再開ができていたようです。ただ、通所系事業所は食材の確保に大変苦労され、昼食を提供できず、入浴のみの対応の事業所も数日間ありました。

さて、今回の災害で多くの課題も見えてきたのではないのでしょうか。ケアマネジャーの皆様一人一人が考え、準備しておくこと。それぞれの地域の中で関係機関と検討・協議をしていくこと。当会としても検討をしていくことがあります。本号が発行されるころには、災害に関する報道が減っているかもしれませんが、課題は今後も続きます。できることから始めていきましょう。

被災された地域、皆様の一日も早い復旧をお祈りいたします。

ケアマネSAPPORO 114号(2018年10月1日発行)

発行元：一般社団法人 札幌市介護支援専門員連絡協議会

編集：一般社団法人 札幌市介護支援専門員連絡協議会 広報委員会

広報委員長：長崎 亮一

広報委員：鈴木 晴美/宮川 亮一/姉崎 重延/小川 美穂/伊藤 和哉/大木 雅広/甲斐 洋平

e-mail : kouhou@sapporo-cmrenkyo.jp ホームページ : <http://sapporo-cmrenkyo.jp/> (札幌ケアマネで検索可)